

第**66**期 中間事業報告書
平成16年4月1日▶▶平成16年9月30日
DISCO CORPORATION



DISCO

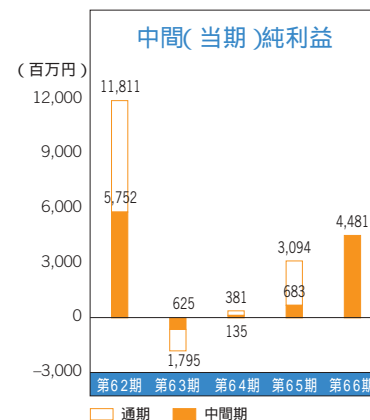
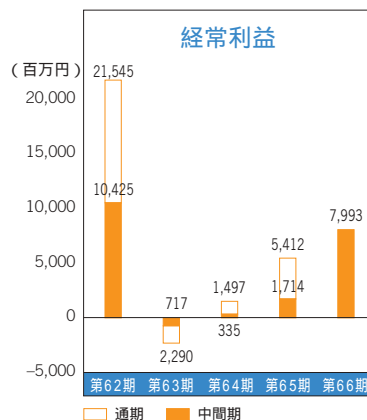
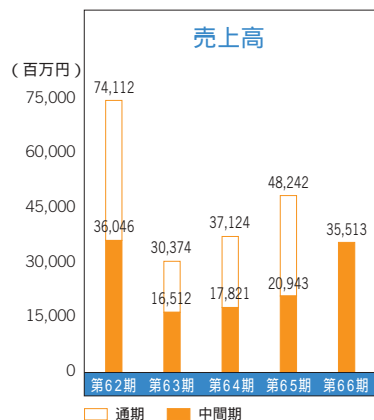
このたび、DISCOのロゴマークが変わりました。
詳細につきましては、当中間事業報告書の4ページ
をご覧ください。

主要財務数値(中間期)

(連結)

(単位:百万円)

	平成13年3月期 (第62期中間期)	平成14年3月期 (第63期中間期)	平成15年3月期 (第64期中間期)	平成16年3月期 (第65期中間期)	平成17年3月期 (第66期中間期)
売上高	36,046	16,512	17,821	20,943	35,513
経常利益	10,425	717	335	1,714	7,993
中間純利益	5,752	625	135	683	4,481
1株当たり中間純利益(円)	179.12	19.48	4.21	21.27	139.48
株主資本	45,546	50,230	48,802	49,159	55,333
総資産	75,439	66,085	62,189	73,360	91,806
株主資本中間純利益率(ROE、%)	12.6	1.2	0.3	1.4	8.1



目次

主要財務数値(中間期)	1
株主の皆さまへ	2
DISCO TODAY	3
部門別営業概況	5
業績のポイント(連結)	7
中間財務諸表(連結)	8
中間財務諸表(単独)	9
株式概要	10

株主の皆さまへ

半導体業界の活況を受け、 増収増益を達成

当中間期の世界経済は、昨秋来の景気拡大基調が続いた期の前半に対し、後半は原油をはじめとする素材価格の高騰、先行き不透明感からの消費マインド低下、米国の雇用環境悪化など、全体的に緩やかな景気減速が見られました。

半導体業界におきましては、パソコン、携帯電話、DVDレコーダー、その他AV機器など、主にデジタル民生用電子機器が牽引力となって、堅調な伸びが見られました。地域別に見ると、特にアジア地域において需要が拡大し、わが国におきましても、輸出の増大、設備投資の回復などが見られ、好調に推移しました。

以上のような状況のもと、当社は顧客価値向上に取り組むとともに積極的な販売活動を展開した結果、当中間期の連結売上高は355億13百万円(前年同期比69.6%増)となりました。また、売上高の増加に伴い、連結営業利益は77億91百万円(同311.9%増)、連結経常利益は79億93百万円(同366.4%増)、連結中間純利益は44億81百万円(同556.0%増)と前年同期比で大幅な増収増益となりました。

第2四半期以降の市況悪化により、 業績予想は実現ならず

期の前半、半導体メーカーは好調が続きましたが、半導体需要の鈍化を受けて、当社におきましても8月ごろから受注に陰りが見え始めました。その結果、前年同期の業績は大幅に上回ったものの、今年7月発表の業績見通しを達成するには至りませんでした。

今後の見通し

半導体業界・電子部品業界は、シクリカルな動きは避けられないものの、中長期的には、最終アプリケーションの広がりにより需要の拡大が見込まれ、成長が期待されています。特に半導体市場は、2003年後半から回復トレンドを迎え、当期に入っても出荷金額・数量ともに高い水準で推移してきました。しかし、8月に入って前年同月比の伸びに鈍化傾向が明確になり、現在では、在庫・生産調整により半導体メーカーの設備稼働率の低下が始まっています。そのため、当社の受注高も第1四半期(4-6月)をピークに第2四半期(7-9月)より下降局面に入りつつあります。



代表取締役社長兼 COO 溝呂木 斉

当社は、引き続き積極的な営業活動と顧客価値向上、コスト削減に取り組む方針ですが、現時点では、通期の連結売上高を640億円(前期比32.7%増)、連結経常利益113億円(同108.8%増)、連結当期純利益64億円(同106.8%増)と見込んでおります。

配当について

配当につきましては、内部留保とのバランスを考慮しつつ安定的な配当に努めるとともに、業績などに応じて弾力的な還元策を図ってまいります。この方針に基づき、中間配当金は普通配当を1株当たり15円(前中間期は1株当たり15円)とさせていただきます。通期では、1株当たり30円(うち中間配当金15円)と、前期と同額とさせていただきます。

株主の皆さまにおかれましては、より一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成16年12月

代表取締役社長兼 COO

Restructuring

持続的成長に向けたリストラクチャリング

「リストラ」という言葉は、事業縮小、人員削減などの意味によく使われますが、本来は「再構築」という意味です。ここでは、持続的成長を遂げるためにディスコが実施している「再構築」の事例をご紹介します。

本社・R&D センター

2004年11月、東京都大田区大森に新社屋が完成。R&Dセンターをはじめ、東京地区の全部門が大森社屋に移転しました。

社屋移転は、総額約138億円という大きな投資ではありますが、顧客価値創造のためのインフラ整備など、移転による多くの効果が期待されています。

旧社屋は...

ディスコの成長に合わせて社屋を増やしてきたため、7カ所に散在。

社屋間の社員の行き来が多いことによる人的コストのロスが発生
部門間のコミュニケーションに支障

本社・R&D センターは...

交通至便な場所に全部門が集約。

部門間の連携強化

さらなる顧客価値創造のためのインフラが充実

来訪される方々にとっての利便性向上

優秀な人財の確保

ディスコ エンジニアリングサービス (DES) 吸収合併

2005年1月に、当社販売装置のメンテナンスサービスを主業務とする子会社、株式会社ディスコ エンジニアリングサービス (DES) を吸収合併します。

この合併により、当社は顧客満足の一層の向上を目指しています。

ディスコの考える顧客満足とは...

個別の製品を売るのではなく、顧客価値の創造、最大化を図ることにより生まれると考えています。そのためには、

機械装置

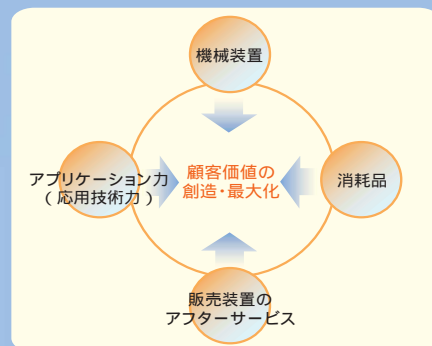
消耗品

機械装置と消耗品の最適な組み合わせを開発・提案するアプリケーション力(応用技術力)

販売装置のアフターサービス

この4つの機能の連携・充実を図る必要があります。

今回の合併は、このような背景のもとに実施されるもので、さらなる部門連携の強化、お客様との真のパートナーシップの構築を目指します。



探究 ~ 本質の追究と技術の可能性への挑戦 ~

本社・R&Dセンターへの移転のタイミングに合わせ、当社のロゴマークを変更いたしました。

新しいロゴマークには、企業活動全般における「本質の追究」、また技術領域における二次元加工技術から三次元加工技術へといったような「技術の可能性への挑戦」という意味が込められています。



部門別営業概況

電子業界関連製品事業

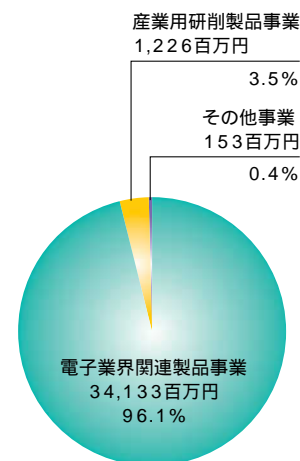
電子業界関連製品事業におきましては、ダイシングソー、グラインダなどの機械装置や精密ダイヤモンド砥石などの消耗品、精密電子部品の製造・販売・アフターサービスを行っています。販売先は半導体メーカー、電子部品メーカーなどが占めており、当社の連結売上高の96.1%を占める中核セグメントです。

当中間期は、半導体メーカーの旺盛な生産稼働率を反映し、消耗品である精密ダイヤモンド砥石の受注・売上高が共に前年同期を大幅に上回り、過去最高を更新しました。

また、コンピュータ向けIC、携帯電話、デジタルスチールカメラなどに搭載されるチップサイズパッケージ(CSP)切断用のダイシングソー、CCD(電荷結合素子)CMOSセンサー、LED切断向けダイシングソー、ウェーハメーカー向けグラインダなどが牽引して、機械受注が前年同期の約2倍に達しました。

地域別では、ほぼ全域において前年同期比増収となりましたが、特に日本、アジア地域において大きな伸びが見られました。以上の結果、当中間期における売上高は341億33百万円(前年同期比73.7%増)となりました。売上高の回復に加え、連結子会社でのコスト削減による損益改善などで、営業利益は94億9百万円(前年同期比166.7%増)となりました。

第66期中間期 部門別売上構成



ダイシングソー



ダイシングブレード

産業用研削製品事業・その他事業



グラインダ



グラインディングホイール



産業用ダイヤモンド砥石

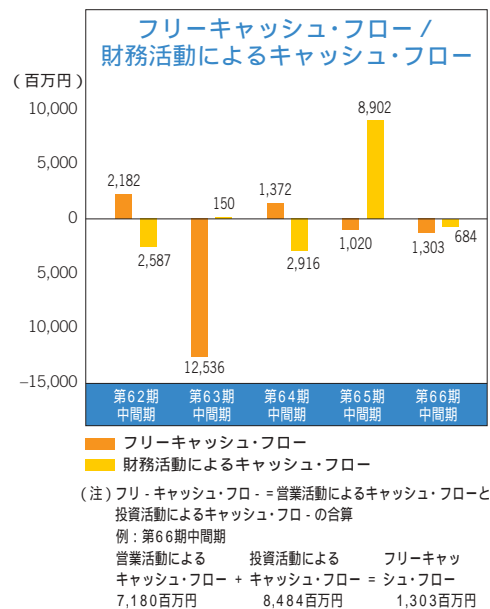
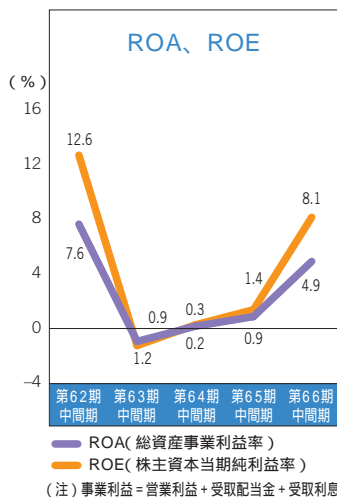
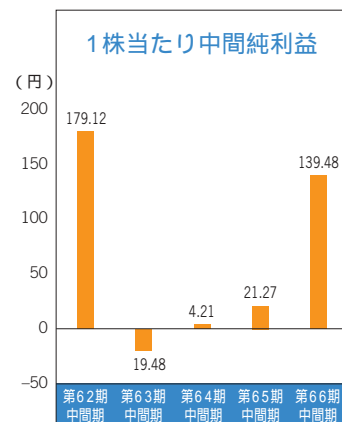
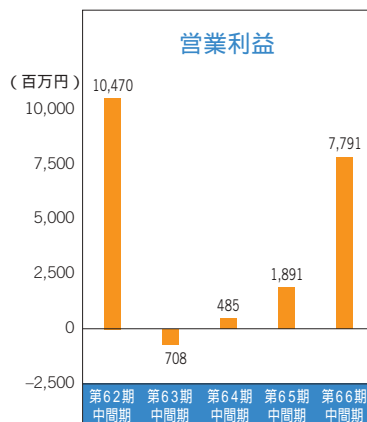
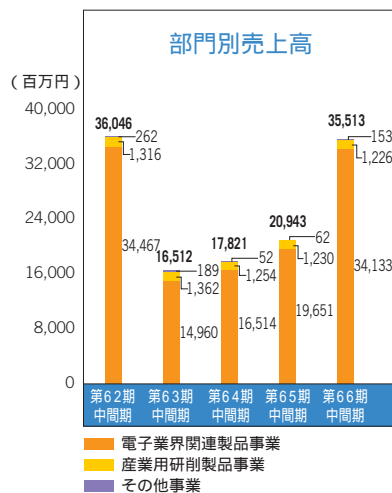
産業用研削製品事業は、ダイヤモンドホイール、研削切断砥石等、主として建築・土木業界向けの研削切断工具の製造・販売を行っています。

当中間期は、積極的な販売活動を展開しましたが、国や地方公共団体による公共事業抑制策などの影響を受け、売上高は12億26百万円(前年同期比0.3%減)となりました。また、コスト削減などの合理化に努めましたが、営業利益は44百万円(前年同期比18.0%減)となりました。

その他事業は、半導体製造装置メーカー等向けのコンピュータソフトの設計・販売を手がける子会社が担っています。

当中間期の売上高は153百万円(前年同期比145.4%増)となりました。また当事業は、下期に売上、利益が集中するため、当中間期の営業損益は23百万円の損失(前年同期は38百万円の損失)となりました。

業績のポイント(連結)



中間財務諸表(連結)

中間連結貸借対照表

(単位:百万円)

科目	第65期通期 (平成16年3月31日現在)	第66期中間期 (平成16年9月30日現在)
(資産の部)		
流動資産		
現金及び預金	19,031	17,121
受取手形及び売掛金	16,903	20,877
棚卸資産	13,692	15,401
その他	2,016	2,289
貸倒引当金	45	15
流動資産合計	51,598	55,675
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	8,462	8,264
機械装置及び運搬具	3,641	3,551
土地	5,710	13,787
その他	3,975	4,657
有形固定資産合計	21,788	30,261
無形固定資産		
無形固定資産	774	794
投資その他の資産		
投資有価証券	2,001	1,630
その他	4,263	3,521
貸倒引当金	73	76
投資その他の資産合計	6,191	5,075
固定資産合計	28,754	36,131
資産合計	80,353	91,806
(負債の部)		
流動負債		
支払手形及び買掛金	5,652	8,715
短期借入金	1,479	1,819
未払法人税等	2,098	3,433
その他	5,784	8,172
流動負債合計	15,015	22,141
固定負債		
新株予約権付社債	9,000	9,000
長期借入金	2,520	2,200
退職給付引当金	1,723	1,739
その他	913	1,109
固定負債合計	14,156	14,049
負債合計	29,171	36,191
(少数株主持分)		
少数株主持分	179	281
(資本の部)		
資本金	9,795	9,842
資本剰余金	10,664	10,715
利益剰余金	30,970	34,918
その他有価証券評価差額金	138	102
為替換算調整勘定	547	223
自己株式	18	21
資本合計	51,002	55,333
負債、少数株主持分及び資本合計	80,353	91,806

中間連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	第65期中間期 (自平成15年4月1日 至平成15年9月30日)	第66期中間期 (自平成16年4月1日 至平成16年9月30日)
売上高	20,943	35,513
売上原価	11,048	17,327
販売費及び一般管理費	8,004	10,394
営業利益	1,891	7,791
営業外収益	132	308
営業外費用	309	106
経常利益	1,714	7,993
特別利益	22	44
特別損失	123	774
税金等調整前中間純利益	1,612	7,263
法人税、住民税及び事業税	849	3,113
法人税等調整額	63	419
少数株主利益	16	88
中間純利益	683	4,481

中間連結キャッシュ・フロー計算書(要約)

(単位:百万円)

科目	第65期中間期 (自平成15年4月1日 至平成15年9月30日)	第66期中間期 (自平成16年4月1日 至平成16年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,683	7,180
投資活動によるキャッシュ・フロー	2,703	8,484
財務活動によるキャッシュ・フロー	8,902	684
現金及び現金同等物に係る換算差額	146	78
現金及び現金同等物の増加額(減少額)	7,736	1,909
現金及び現金同等物の期首残高	6,666	19,031
新規連結子会社の現金及び現金同等物の期首残高	240	—
現金及び現金同等物の中間期末残高	14,643	17,121

中間財務諸表(単独)

中間貸借対照表

(単位 : 百万円)

科 目	第 6 5 期 通 期 (平成16年3月31日現在)	第 6 6 期 中 間 期 (平成16年9月30日現在)
(資 産 の 部)		
流動資産		
現金及び預金	16,406	13,388
受取手形	572	1,092
売掛金	13,086	15,655
棚卸資産	11,607	13,412
その他	3,494	3,665
貸倒引当金	1	1
流動資産合計	45,165	47,212
固定資産		
有形固定資産		
建物	6,900	6,717
土地	4,983	13,050
建設仮勘定	3,384	4,135
その他	3,990	3,870
有形固定資産合計	19,259	27,773
無形固定資産		
	521	546
投資その他の資産		
投資有価証券	1,164	993
関係会社株式	4,443	4,213
その他	3,866	3,105
貸倒引当金	60	60
投資その他の資産合計	9,414	8,251
固定資産合計	29,195	36,571
資産合計	74,361	83,784
(負 債 の 部)		
流動負債		
支払手形	2,205	3,508
買掛金	2,714	4,370
短期借入金	840	840
未払法人税等	1,717	2,950
その他	4,868	7,348
流動負債合計	12,345	19,017
固定負債		
新株予約権付社債	9,000	9,000
長期借入金	1,720	1,500
長期未払金	—	1,040
退職給付引当金	1,493	1,518
役員退職慰労引当金	851	—
固定負債合計	13,064	13,059
負債合計	25,410	32,077
(資 本 の 部)		
資本金	9,795	9,842
資本剰余金	10,664	10,715
資本準備金	10,664	10,715
利益剰余金	28,371	31,069
利益準備金	594	594
任意積立金	17,028	17,024
中間(当期)末処分利益	10,748	13,450
その他有価証券評価差額金	138	102
自己株式	18	21
資本合計	48,950	51,707
負債及び資本合計	74,361	83,784

中間損益計算書

(単位 : 百万円)

科 目	第 6 5 期 中 間 期 (自平成15年4月1日 至平成15年9月30日)	第 6 6 期 中 間 期 (自平成16年4月1日 至平成16年9月30日)
売上高	15,411	28,085
売上原価	8,137	13,855
販売費及び一般管理費	6,335	8,608
営業利益	938	5,621
営業外収益	929	392
営業外費用	236	38
経常利益	1,631	5,975
特別利益	0	44
特別損失	115	765
税引前中間純利益	1,515	5,253
法人税、住民税及び事業税	659	2,576
法人税等調整額	13	546
中間純利益	843	3,224
前期繰越利益	8,974	10,225
中間未処分利益	9,817	13,450

株式概要 (平成16年9月30日現在)

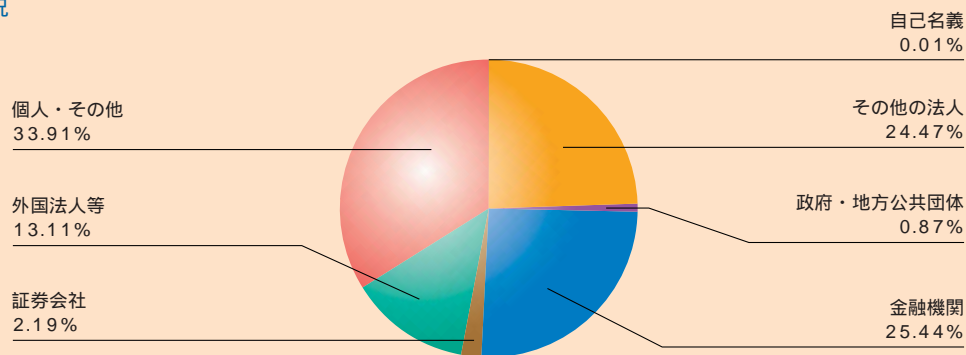
上場証券取引所 東京証券取引所 市場第一部(証券コード6146)

発行済株式総数 32,156,265株

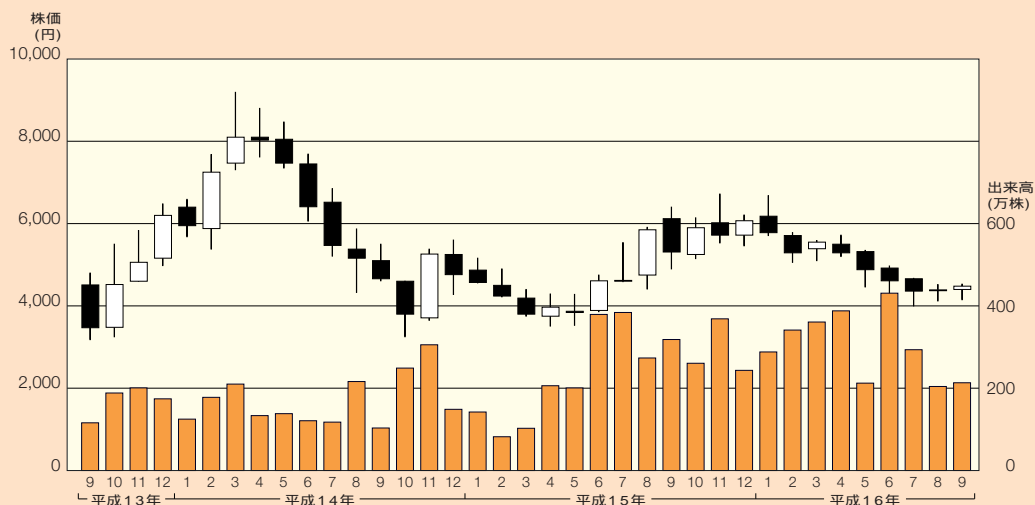
株主数 19,095名

大株主	株数	割合	株主名	株数	割合
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	2,202千株	6.85%	関家 臣二	1,433千株	4.46%
株式会社ダイイチ企業	1,998千株	6.21%	関家 憲一	1,051千株	3.27%
株式会社ダイイチホールディングス	1,998千株	6.21%	株式会社オレンジコーラル	846千株	2.63%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	1,906千株	5.93%	リーマンブラザーズインターナショナルヨーロッパ	781千株	2.43%
株式会社第一総業	1,709千株	5.31%	株式会社あおぞら銀行	750千株	2.33%

所有者別株式数分布状況



株価チャート



株 主 メ モ

決 算 期	毎年3月31日
定 時 株 主 総 会	毎年6月
利益配当金受領株主確定日	毎年3月31日
中間配当金受領株主確定日	毎年9月30日
基 準 日	定時株主総会については、毎年3月31日といたします。 その他必要があるときは、あらかじめ公告して定めます。
名 義 書 換 代 理 人	東京都千代田区丸の内一丁目4番3号 UFJ信託銀行株式会社
同 事 務 取 扱 所	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 TEL (03) 5683-5111(代表)
同 取 次 所	UFJ信託銀行株式会社 全国各支店
公 告 掲 載 新 聞	日本経済新聞

本報告書に関するお問い合わせ
株式会社ディスコ IR・渉外室 TEL (03) 4590-1099 / FAX (03) 4590-1094

前号では、アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。
頂戴した貴重なご意見につきましては、今後、事業報告書のみならず、当社の企業活動全般に生かしてまいります。

ホームページ

<http://www.disco.co.jp/>

